

目的 布おむつの尿汚れ除去に関し、合理的洗濯方法を見出すため、実験を重ね報告してきた。尿は年令、個人差、採取時等の諸条件により成分が異なるので、汚れの取れにくい成人尿汚染布の洗浄に近似する人工尿汚染布を、見つけ出したいと考え検討した。

方法 1. 人工尿汚染布の作製の検討

a. 尿の成分である尿素、尿酸、食塩、アンモニアの主成分の中の尿素の濃度を变化させ、その外に肉エキス（和光肉エキス）を0.3、0.6、0.9%と段階的に変えて人工尿とし、汚染布を作製した。

b. 人工尿汚染布：小試料布約2.8gに人工尿を標準割合滴下、20分と17時間放置後使用。
洗濯：浸漬10分、水洗3分、くり返し4回、その間吊り下げ5分、浴比30倍、温度30℃、蒸留水で振とう洗い（振とう機、左右振とう120回/分）。残留汚れ量は、ヨウ素法により有効塩素消費量を測り指標とした。

2. 各市販洗剤による尿汚れ除去

1の実験で検討した成人尿に近似した割合いで人工尿汚染布を作製し、市販洗剤5種の指示濃度で、浸漬30分、本洗い5分、すすぎ3分×2回、他は1のbに準じた。

結果 人工尿A（尿素、尿酸、食塩、アンモニア、肉エキス）は、人工尿B（尿素、肉エキス）より有効塩素の消費量が大きく、混入率が多いほど消費量は増す。洗濯による汚れ残留の具合では、尿の正常成分に示されている人工尿に肉エキス0.6%、添加したものが成人尿汚染布に近い値を示した。